

排水監視システム開発

役場など3者同時管理OK

電業
松産
小機

高速シートシャッターの開発で知られる小松電機産業(島根県八束郡八雲村、小松昭夫社長)が、市町村役場と管理業者、専門家の三者で同時に集中管理できる集落排水計測・制御・監視システムを開発した。

「やくも水神」と名付けられた同システムは、全国各地の自治体で進められている農業集落排水や合併処理浄化槽など集落排水事業に対応できるもので、集中管理による省力化が可能。技術者不足に対応するため、水処理専門家(水処理相談センター)とのネットワーク化も実現させた。

市町村役場に設置されたホストコンピュータで処

理施設(最大十五カ所)と中継ポンプ場(最大五十カ所)の運転状態や水質、有機汚濁度などの計測値を監視。測定値のグラフ表示や過去一年間のデータ蓄積もできる。

電話回線は従来の専用回線に対して、公衆回線を利用。通信コストが半減したほか、広域的な通信も可能となり、役場、維持管理業者、水処理専門家の三者で同時に監視できるコンピュータ・アシスト・ネットワーク(CAN)の特許出願中と呼ばれるシステムを確立。同社独自で設置した水処理相談センターとネットワークを結び、専門家が水質などの計測データに

ついて市町村にアドバースする。

同社は、昭和六十二年から同システムの開発を進め、これまで市町村の注文に応じるかたちで生産していたが、標準化した商品としての開発に成功。すでに兵庫県氷上郡市島町の集落排水事業や益田市(石見空港整備事業)の上下水道施設に利用されている。価格は、規模に応じて約二千万円から四千万円まで。小松社長は「初年度は約十セツトの販売を見込んでいます。シートシャッターと並ぶ主力商品として全国展開していきたい」と話している。